

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 1 月 10 日  
東京電力株式会社

## <タービン建屋地下のたまり水の処理>

### ◇高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

#### [処理設備]

・H24/1/4 14:36 第二セシウム吸着装置を起動。14:48 定常流量に到達。

1/9 10:40 頃 水処理設備の蒸発濃縮装置2B(停止中)近傍に水たまりを発見。水たまりの量は11リットル程度で全て堰内におさまっており、漏えい箇所は蒸発濃縮装置の蒸発濃縮装置ベントコンデンサスプレイライン\*のフロート式流量計で、漏えい量は6秒に1滴程度だったが、同ライン上の弁を閉止し、15~20秒に1滴程度となる。今後、漏えい箇所に受けを設置予定。なお、漏えいした水は蒸発濃縮装置で蒸気を凝縮させた淡水化処理後の水(原子炉注水用の水)。また、当該系統の水は定期的に核種分析が行われており、放射性物質は、至近の分析結果がβ線は $6.0 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ (H23/11/29)、γ線は検出限界未満(H23/12/20)。

\*蒸発濃縮装置ベントコンデンサスプレイライン:蒸発濃縮装置の蒸発器で発生した蒸気(淡水化処理水)を冷却し、原子炉注水用の水を生成するための水を供給するライン

1/10 9:25 第二セシウム吸着装置において、徐々に処理流量に低下傾向が見られることから、フィルタの逆洗をするため、当該装置を一時停止。12:58 に同装置を起動し、13:04、定常流量(約 36m<sup>3</sup>/h)に到達。

10:28 頃 淡水化装置(逆浸透膜式)の濃縮水貯槽において、当社社員がタンク付け根のパッキンから水が1秒に1滴程度で滴下していることを確認。漏えい量は10リットル程度であり、コンクリート上に留まっている。その後、タンク接合部のボルトの増し締めを実施し、12:35 頃、漏えいの停止を確認。また、漏えい拡大防止のために、水たまりの周りに土のうを積む作業を実施。なお、貯蔵中の廃液タンクからの漏えいのため、水処理装置の停止は不要であり、原子炉注水への影響はない。

#### [貯蔵設備]

・H23/6/8~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

### ◇トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元→移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋→集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋、雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・1/9 21:51~1/10 7:57 移送実施 ・1/10 8:17~ 移送実施中*
3号機	・3号機タービン建屋→集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋、雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・1/9 21:55~1/10 8:00 移送実施
6号機	・6号機タービン建屋→仮設タンク	・1/10 移送なし

※2号機タービン建屋から集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋]へ移送。

### ◇トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (1/10 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P.<+ 850 mm (1/9 7:00 と同じ)	O.P.+ 3,115 mm (1/9 7:00 から 16 mm 上昇)	O.P.+ 4,228 mm (1/9 7:00 から 2 mm 上昇)
2号機	O.P.+ 3,157 mm (1/9 7:00 から 1 mm 上昇)	O.P.+ 3,130 mm (1/9 7:00 から 1 mm 下降)	O.P.+ 3,286 mm (1/9 7:00 から 1 mm 上昇)
3号機	O.P.+ 3,151 mm (1/9 7:00 から 8 mm 下降)	O.P.+ 3,084 mm (1/9 7:00 から 8 mm 下降)	O.P.+ 3,363 mm (1/9 7:00 から 7 mm 下降)
4号機	—	O.P.+ 3,107 mm (1/9 7:00 から 6 mm 下降)	O.P.+ 3,122 mm (1/9 7:00 から 8 mm 下降)

<放射性物質のモニタリング>  
海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5,6号機放水口北側約30m	1/9	8:50	ND	0.02	0.02
福島第一 1~4号機放水口南側約330m	1/9	8:25	ND	0.03	0.01
福島第二 3,4号機放水口付近	1/9	8:20	ND	0.02	0.02
福島第二 1,2号機放水口南側約7km	1/9	8:00	ND	ND	0.01
請戸側沖合15km(上層)	1/8	9:15	ND	ND	0.01

・その他、福島県沖合2地点(1/8採取分)における主要3核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)は全てND。

<使用済燃料プールの冷却> (1/10 11:00時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	13.0℃
2号機	循環冷却システム	運転中	13.1℃
3号機	循環冷却システム	運転中	15.7℃
4号機	循環冷却システム	運転中	21℃

【2号機】・1/10 13:38~15:43 使用済燃料プールへヒドラジンを注入(約2m<sup>3</sup>)。

<原子炉压力容器への注水・原子炉の状況> (1/10 11:00時点)

号機	注水状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約4.6m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約1.8m <sup>3</sup> /h)	25.7℃	26.3℃	106.9 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約2.9m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約7.1m <sup>3</sup> /h)	48.6℃	51.0℃	110 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約1.9m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約6.9m <sup>3</sup> /h)	46.4℃	55.3℃	101.6 kPaabs

【3号機】・1/10 10:05 原子炉への注水について、タービン建屋内炉注水ポンプの試運転準備に伴う給水系からの注水配管切替のため、給水系からの注水量を約3.0m<sup>3</sup>/hから2.0m<sup>3</sup>/h、炉心スプレイ系からの注水量を約6.0m<sup>3</sup>/hから約7.0m<sup>3</sup>/hに調整。

【4号機】【5号機】【6号機】・特に変化なし

<その他>

- ・H23/10/7~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5,6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。
- ・H24/1/9 14:22頃 建設中の廃スラッジ貯蔵施設\*において、コンクリート打設作業を行っていた協力企業作業員1名が体調不良を訴え、5/6号機緊急医療室に運ばれ、治療を受けたが、心肺停止状態であることから、15:25、福島第一原子力発電所から総合磐城共立病院へ搬送。なお、作業員の身体に放射性物質の付着はない。

\*廃スラッジ貯蔵施設:滞留水処理の過程で発生する放射性廃棄物(廃スラッジ)を一時貯蔵するための施設。

以上